



NO.

いちよう

発行所

待乳山 本龍院

〒111 東京都台東区浅草7-4-1

-0032 TEL. 03(3874)2030

FAX. 03(3874)5280

八雲立つ

住職 平田真純

出雲大社いずもたいしゃで有名な、古代からの神域である出雲の国、その「出雲」という名称の由来として諸説ある中、「出雲国風土記」には、

—出雲なづと号なづくる所以ゆえは、八東水臣津野命やつかみづおみづのみこと、詔りたまひしく、「八雲立つ」と詔りたまひき。故、八雲立つ出雲といふ。—

とあり、その解説として、「出雲国風土記（講談社学術文庫）」には、

—国名の「八雲立つ」という称詞は、雲が農耕に慈雨をまたらすめでたさをもつばかりでなく、「…国原は煙立ち立つ」（『万葉集』巻一・二）と歌われる「煙」と同じく、盛んに立ち上る水気・雲気が、自然の生命力の活発な発動の姿だという古代人の観想に支えられることによって、称詞たりえている。—
と論じられています。

太陽や恵みの雨ばかりでなく、雲にもめでたさを見出すという、言ってみれば、自然のはたらきすべてに神が宿るといふ日本人の信仰心がここにも表れていると思います。

ところで、仏教の重要な経典「法華経」にも、人はもちろん、草木、石ころにいたるまで、すべてに仏が

宿る、すべてが尊ぶべきものであって、無意味なものなど一つもないという真理が説かれています。我々の心には、「法華経」ひいては「大乘仏教」が根付く下地があったのでありましょう。

その信仰心は、皆様方の聖天さまへの信心にも生きており、長く参拝されている方は、良いと感じられることも、たとえ悪いと感じられることも、すべてに聖天様のお導きが宿っていると、絶対の信頼を置いておられると思います。

しかしこれは、ともすれば運命論的、宿命論的にも聞こえ、受け身に感じられてしまうかもしれません、それはむしろ逆で、自分の意思がなければ、運命も宿命もありません。聖天さまの信徒の皆様は、自分の力で切り開こうという強い意識を持たれている方が多いと思われます。たとえ「当病平癒」のような一見受け身に思われるような御祈願でも、絶対に直したい、生き延びたいという強い意志が感じられます。逆に言えば、自身の意志力、行動力がなければ、聖天さまのお力も百パーセント発揮できないということではないでしょうか。

太古の昔も、よりよい生活への意志や努力があつて、はじめて雲のはたらきもめでたく、神仏に心が通じていくのでしょうか。

待乳山だより

信徒旅行ご報告

五月二十八日から二十九日、四十名の参加者で比叡山延暦寺へ向かいました。今回は一般修行道場「居士林」にての修行体験を中心にした日程で行われました。

最初に訪れた律院では千日回峰行を満行された叡南俊照阿闍梨様によるお護摩と数珠のお加持とご法話をいただきました。次に聖天様をお祀りしている最乗院へお参りし、居士林での研修に入りました。



初日は修行の解説等と写経。翌日は午前五時に起床し、釈迦堂前で千日回峰行者の釜掘浩元師よりお加持をいただいた後、清々しい空気の中、坐禅を行いました。その後、根本中堂や浄土院、横川中堂など山内のお堂を参拝しました。研修中は食事作法



も大切な修行の一種です。お椀の上げ下げにも気を配り、音を一切立てずに食事をいただくのには苦勞される方も多かつたようです。単なる観光で比叡山を訪れただけではできない貴重な経験に、みなさん思いきって行つてよかつたと満足されたようです。

二日間と短い期間でしたが、修行体験の中で新しい気付きがあつたことと思ひます。ぜひ日常の生活に戻られた後もその気付きを活かしてください。

畑中講ご報告

五月十五日、畑中講大般若法要を執り行いました。

畑中講は創立から四十年を超える伝統ある講で、毎年五月に当山で法要をされております

今年も三社祭りの祭囃子の中、多くの講員の皆様が出席されました。法要終了後、これも毎年恒例となる記念の写真撮影を行い、広間にてご歓談されました。

世話人往来

左記の朝参り会世話人五名が任期を終えられました。

- 山形公二様 井沼良子様 松田克己様
 - 田中千織様 竹内大樹様
- 今まで長い間ありがとうございました。



お宮参り

五月は三名のお宮参りを行いました。尊天様に見守られ、無事成長されることと思ひます。お宮参りは寺務所にて予約を受け付けております。法要料 五〇〇〇円



熊本地震義援金

「平成二十八年熊本地震」にて被災された方を支援するため、皆様から頂いた義援金八一二三四円、本龍院からの義援金三〇〇〇〇円を、被災地に対して寄付させていただいたことをご報告いたします。ご協力ありがとうございました。

行事報告

五月二十日(金)、大般若講を行い、皆様の所願成就を祈願いたしました。

朝まいり会 六月度表彰者(敬称略)

- 一年 高橋邦夫
- 二年 清水淳也 松浦昌孝 山内裕太郎
- 五年 榊原千浩 高橋司

待乳山本龍院 七月の行事

出世観音供養会

七月十七日(日) 午前十一時

講金 一、五〇〇円



七月十七日、出世観音供養会を執行いたします。

昭和九年、境内周辺の擁壁工事をを行った際、土中より足利時代末期のものとして推定される観音様の御尊首が発見されました。信者様より寄付を募って御尊体を作り、昭和十一年に開眼供養を行いましたのが現在当山におられる出世観音菩薩となります。

観音様はどんな悩みを持っている衆生も救ってくださる

現世利益の菩薩です。『観音経』

には、観音菩薩は相手の求めに応じて、姿を変えて顕現すると説かれており、各地で様々な御利益を持った様々な姿の観音様が信仰されるようになりました。

当山の観音様は長い間お隠れになっていたお姿が現れたことから、これから世に出ようとするとする芸事や学業に励む方、また立身出世や、商売繁盛を望む方を助ける出世観音として、多くの方に信仰を集めております。

法要の際は『観音経』をお唱えいたします。『観音経』の功德によって、より一層出世観音様とご縁を結ばれることでしょう。出世観音供養会にぜひご参加ください。

常香講大法要

七月二十日(水) 午前十一時

講金 一、五〇〇円

七月二十日、常香講大法要を執り行い、聖天様にお供えするお香をご供養いたします。また講に申し込まれた方には、塗香を授与いたします。

仏教において、お香は良い香りを周囲に満たすことから、不浄を払うと伝えられています。法要の際にお香を炊き、お参りの前に塗香を塗るのには、身体を清め、精神を安らかにするという意味があるのです。

またお香の香りが隅々まで広がることは、仏の教えが広がることに例えられ、香りを届けること自体が、仏様に対する供養となります。尊天様のご供養のためにも、多くの方のお申し込みをお待ちいたします。



法要案内

当山では次のような法要を行っております。事務所にて、お問い合わせください。

ご希望の日時にお受けできない場合もございます。あらかじめご了承ください。

百味供養

法要料 八万円
沢山のお供物をお供えて尊天さまに御礼の供養をいたします。

大般若法要

法要料五万円
個人の御礼の法要として、大般若経六百巻を転読いたします。

自動車加持

法要料 壹万円
当院にてお車のお加持をいたします。当日はお車にてお越しください。

安産祈願

法要料 壹万円
妊婦様の健康と赤ちゃんの成長を祈願いたします。

お宮参り

法要料 五千元
無事に生まれた感謝と、健やかな成長を御祈願いたします。

七五三

法要料 五千元
お子さんが無事育ったことを感謝し、さらに今後の幸せを祈願いたします。

七月行事予定

御縁日大法要

出世観音供養会

七月十七日(日) 午前十一時

講金

一、五〇〇円也

参道の出世観音様をご供養いたし、特に学業・芸事・開運・出世をご祈願します。

常香大法要

七月二十日(水) 午前十一時

講金

一、五〇〇円也

ご祈祷に用いるお香を供養いたします。

朝まいり会

七月一日〜七日 午前八時から八時半 会費

月 五〇〇円也

都合のよい日に、ご参加くださっても結構です。最終日には、読誦終了後に食事作法を行います。

日曜勤行

七月十日(日) 午前九時

参加費

無料

初心の方も気軽にご参加いただけるおつとめの会です。

写経の会

七月十日(日) 午前十時/午後一時 会費

五〇〇円也

心を落ち着かせて写経することで、日常を離れ、自分を見つめ直しましょう。

坐禅の会

七月二十三日(土) 午後六時〜八時 定員三十名 参加費 五〇〇円也

本堂にて坐禅を行います。定員になり次第、募集を締め切らせていただきます。

合同大般若法要

七月二十五日(月) 午前十一時

法要料

五、〇〇〇円也

心願が成就し、より一層の御加護を頂くために、皆さんとご一緒にお上げする御礼の法要です。

八月の行事

御縁日大法要

灯明講

八月二十日(土) 午前十一時

講金

一、五〇〇円也

ご祈祷のご案内

聖天様独特の供養法である浴油供は、密教の中で最も深秘の法とされています。この供養法は聖天様のお力がより一層高められ、私どもが不可能と思われるような願い事でも、孫天様の不思議方便のお働きを得て、必ず成就させて頂けるのであります。

当山ではこの浴油祈祷を、毎朝開堂と同時に厳修しております。寺務所にて受け付けておりますので、お名前とお願いの内容、祈祷期間をお伝え下さい。

またご遠方の方やお急ぎの方は、お電話やお手紙でも受け付けております。どうぞお申込みください。

祈祷料

別座祈祷 壹万円以上(一週間)

浴油祈祷 三千五百円以上(一週間)

華水供 五百円/一日